レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

令和 8 年 4 月 1 日

殿

広島県山県郡安芸太田町大字津浪29
あさやま工業株式会社

配合計画者名 片山 正信

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月21日～6月20日、9月11日～11月20日（標準配合）
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB	
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－	kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－	℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	60	%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載			
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	－	kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－	kg/m³
	空気量	4.5 %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－	cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント㈱		密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材	製品名	－	種類 －	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	混合砂	山県郡安芸太田町産	－	－	5～0.15	2.80	－	2.53	－
	②	砕砂	山県郡安芸太田町産	A	化学法	－	－	－	－	7.0±2.0
	③	陸砂	山県郡安芸太田町産	A	化学法	－	－	－	－	3.0以下
粗骨材	①	砕石1305	山県郡安芸太田町産	A	化学法	13～5	58.5	－	2.63	0.5±0.5
	②	砕石2013	山県郡安芸太田町産	A	化学法	20～13		－	2.63	0.5±0.5
	③	砕石4020	山県郡安芸太田町産	A	化学法	40～20		－	2.63	0.5±0.5

混和剤①	製品名	シーカ ポゾリス 15 SC	種類	AE減水剤標準形Ⅰ種	Na_2Oeq %	0.7
混和剤②		－		－		－

細骨材の塩化物量	①0.001%	② － %	③ － %	水の種類	地下水：上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264	－	145	822	－	－	210	313	523	1.85	－

水セメント比	55.1 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.0 %

備考

【細骨材混合比】①(砕砂：陸砂＝50：50)
【粗骨材混合比】①：②：③＝20%：30%：50%

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	24	8	40	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10　%
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.214$　$\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100\sqrt{3.0}}} = 1.209$　$\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.250$	$\alpha 1 = 1.214$ $\alpha 2 = 1.209$ $\alpha 3 = 1.250$ $\alpha = 1.250$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.250 \times 24 = 30.0$	30.0　N/mm²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.30 + 23.90 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{23.90}{30.0 + 13.30} \times 100 = 55.1$	 55.1　%
単位水量	W	当工場の実績により	145 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{145}{55.1} \times 100 = 264$	264 kg/m³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 264 ÷ 3.04 = 87	87 ℓ/m³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45	45 ℓ/m³
粗骨材かさ容積	Gv'	当工場の実績により（実積率＝58.5 %）	0.680 m³/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv＝かさ容積×実積率(%) = 680 × 58.5(%) = 398	398 ℓ/m³
	Gv1	①Gv1 = Gv × 20(%) = 80	80 ℓ/m³
	Gv2	②Gv2 = Gv × 30(%) = 119	119 ℓ/m³
	Gv3	③Gv3 = Gv × 50(%) = 199	199 ℓ/m³
	G1	①G1 = Gv1 × 密度(2.63) = 210	210 kg/m³
	G2	②G2 = Gv2 × 密度(2.63) = 313	313 kg/m³
	G3	③G3 = Gv3 × 密度(2.63) = 523	523 kg/m³
単位細骨材量	Sv	Sv＝設計容積－(W＋Cv＋Gv＋A)＝1000－(145＋87＋398＋45)＝325	325 ℓ/m³
	S	S = Sv × 密度(2.53) = 822	822 kg/m³
細骨材率	s/a	$s/a = \frac{Sv}{Sv + Gv} \times 100 = \frac{325}{325 + 398} \times 100 = 45.0$	45.0　%
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝264×0.70(%)＝1.85	1.85 kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264	－	145	822	－	－	210	313	523	1.85	－

水セメント比	55.1　%	水結合材比	－　%	細骨材率	45.0　%

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

令和 8 年 4 月 1 日

殿

広島県山県郡安芸太田町大字津浪29
あさやま工業株式会社

配合計画者名 片山 正信

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月21日～9月10日（修正標準配合）
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－ ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	空気量	4.5 %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm

使用材料

セメント	生産者名	ＵＢＥ三菱セメント㈱		密度 g/cm³	3.04	Na₂Oeq %	－
混和材	製品名	－	種類 －	密度 g/cm³	－	Na₂Oeq %	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	混合砂	山県郡安芸太田町産	－	－	5～0.15	2.80	－	2.53	－
	②	砕砂	山県郡安芸太田町産	A	化学法	－	－	－	－	7.0±2.0
	③	陸砂	山県郡安芸太田町産	A	化学法	－	－	－	－	3.0以下
粗骨材	①	砕石1305	山県郡安芸太田町産	A	化学法	13～5	58.5	－	2.63	0.5±0.5
	②	砕石2013	山県郡安芸太田町産	A	化学法	20～13		－	2.63	0.5±0.5
	③	砕石4020	山県郡安芸太田町産	A	化学法	40～20		－	2.63	0.5±0.5

混和剤①	製品名	シーカ ポゾリス 15 SC	種類	ＡＥ減水剤標準形Ｉ種	Na₂Oeq %	0.7
混和剤②		－		－		－

細骨材の塩化物量	①0.001%	② － %	③ － %	水の種類	地下水：上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264	－	145	822	－	－	210	313	523	2.24	－

水セメント比	55.1 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.0 %

備考

【細骨材混合比】①(砕砂：陸砂＝50：50)
【粗骨材混合比】①：②：③＝20%：30%：50%

夏期修正標準配合
骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	24	8	40	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10　%
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.214$　$\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100\sqrt{3.0}}} = 1.209$　$\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.250$	$\alpha 1 = 1.214$ $\alpha 2 = 1.209$ $\alpha 3 = 1.250$ $\alpha = 1.250$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.250 \times 24 = 30.0$	30.0　N/mm²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.30 + 23.90 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{23.90}{30.0 + 13.30} \times 100 = 55.1$	 55.1　%
単位水量	W	当工場の実績により	145 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{145}{55.1} \times 100 = 264$	264 kg/m³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 264 ÷ 3.04 = 87	87 ℓ/m³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45	45 ℓ/m³
粗骨材かさ容積	Gv'	当工場の実績により（実積率＝58.5 %）	0.680 m³/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv＝かさ容積×実積率(%) = 680 × 58.5(%) = 398	398 ℓ/m³
	Gv1	①Gv1 = Gv × 20(%) = 80	80 ℓ/m³
	Gv2	②Gv2 = Gv × 30(%) = 119	119 ℓ/m³
	Gv3	③Gv3 = Gv × 50(%) = 199	199 ℓ/m³
	G1	①G1 = Gv1 × 密度(2.63) = 210	210 kg/m³
	G2	②G2 = Gv2 × 密度(2.63) = 313	313 kg/m³
	G3	③G3 = Gv3 × 密度(2.63) = 523	523 kg/m³
単位細骨材量	Sv	Sv＝設計容積－(W＋Cv＋Gv＋A)＝1000－(145＋87＋398＋45)＝325	325 ℓ/m³
	S	S = Sv × 密度(2.53) = 822	822 kg/m³
細骨材率	s/a	$s/a = \frac{Sv}{Sv + Gv} \times 100 = \frac{325}{325 + 398} \times 100 = 45.0$	45.0　%
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝264×0.85(%)＝2.24	2.24 kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264	－	145	822	－	－	210	313	523	2.24	－

水セメント比	55.1　%	水結合材比	－　%	細骨材率	45.0　%

備考

夏期修正標準配合

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

令和 8 年 4 月 1 日

殿

広島県山県郡安芸太田町大字津浪29
あさやま工業株式会社

配合計画者名 片山 正信

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	11月21日～3月20日（修正標準配合）
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB	
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－	kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	－	コンクリートの温度	－	℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	60	%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載			
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	－	kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－	kg/m³
	空気量	4.5 %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－	cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント㈱		密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材	製品名	－	種類 －	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	混合砂	山県郡安芸太田町産	－	－	5～0.15	2.80	－	2.53	－
	②	砕砂	山県郡安芸太田町産	A	化学法	－	－	－	－	7.0±2.0
	③	陸砂	山県郡安芸太田町産	A	化学法	－	－	－	－	3.0以下
粗骨材	①	砕石1305	山県郡安芸太田町産	A	化学法	13～5	58.5	－	2.63	0.5±0.5
	②	砕石2013	山県郡安芸太田町産	A	化学法	20～13		－	2.63	0.5±0.5
	③	砕石4020	山県郡安芸太田町産	A	化学法	40～20		－	2.63	0.5±0.5

混和剤①	製品名	シーカ ポゾリス 15 SC	種類	AE減水剤標準形Ⅰ種	Na_2Oeq %	0.7
混和剤②		－		－		－

細骨材の塩化物量	①0.001%	② － %	③ － %	水の種類	地下水：上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264	－	145	822	－	－	210	313	523	1.58	－

水セメント比	55.1 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.0 %

備考

【細骨材混合比】①(砕砂：陸砂＝50：50)
【粗骨材混合比】①：②：③＝20%：30%：50%

冬期修正標準配合
骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	24	8	40	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10　%
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.214$　$\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100\sqrt{3.0}}} = 1.209$　$\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.250$	$\alpha 1 = 1.214$ $\alpha 2 = 1.209$ $\alpha 3 = 1.250$ $\alpha = 1.250$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.250 \times 24 = 30.0$	30.0　N/mm²
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.30 + 23.90 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{23.90}{30.0 + 13.30} \times 100 = 55.1$	 55.1　%
単位水量	W	当工場の実績により	145 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{145}{55.1} \times 100 = 264$	264 kg/m³
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 264 ÷ 3.04 = 87	87 ℓ/m³
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45	45 ℓ/m³
粗骨材かさ容積	Gv'	当工場の実績により（実積率＝58.5 %）	0.680 m³/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv＝かさ容積×実積率(%) = 680 × 58.5(%) = 398	398 ℓ/m³
	Gv1	①Gv1 = Gv × 20(%) = 80	80 ℓ/m³
	Gv2	②Gv2 = Gv × 30(%) = 119	119 ℓ/m³
	Gv3	③Gv3 = Gv × 50(%) = 199	199 ℓ/m³
	G1	①G1 = Gv1 × 密度(2.63) = 210	210 kg/m³
	G2	②G2 = Gv2 × 密度(2.63) = 313	313 kg/m³
	G3	③G3 = Gv3 × 密度(2.63) = 523	523 kg/m³
単位細骨材量	Sv	Sv＝設計容積－(W＋Cv＋Gv＋A)＝1000－(145＋87＋398＋45)＝325	325 ℓ/m³
	S	S = Sv × 密度(2.53) = 822	822 kg/m³
細骨材率	s/a	$s/a = \frac{Sv}{Sv + Gv} \times 100 = \frac{325}{325 + 398} \times 100 = 45.0$	45.0　%
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝264×0.6(%)＝1.58	1.58 kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
264	－	145	822	－	－	210	313	523	1.58	－

水セメント比	55.1　%	水結合材比	－　%	細骨材率	45.0　%

備考

冬期修正標準配合